

【問題1】[CTRL]キー+[W]を押すと、次のように郵便番号を変換するマクロを組みなさい。

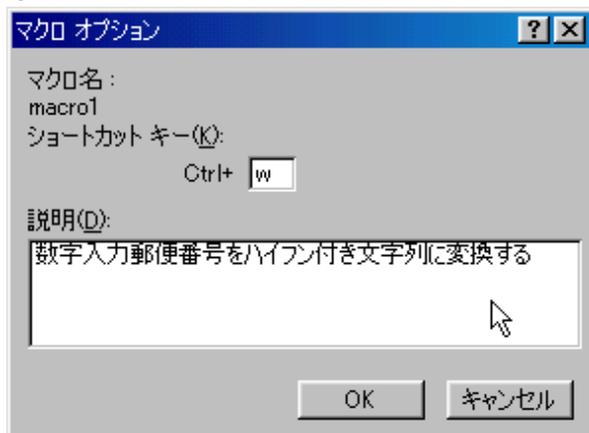
3520001 → 352-0001 というように変換する
 変換後、アクティブセルが下に移動する。

	A	
1	3220001	
2	4330989	
3	2210011	
4		

- ①A1～A3のセルに、適当な7桁の数字を入力する。
- ②[ALT]キー+[F8]を押す。
- ③マクロ名をmacro1とし、[作成]ボタンをクリックする。
- ④次のマクロを入力する。

```
Sub macro1()
Dim str, s1, s2 As String
str = ActiveCell.Value
s1 = Left(str, 3)
s2 = Right(str, 4)
str = s1 & "-" & s2
ActiveCell.Value = str
ActiveCell.Offset(1, 0).Range("A1").Select
End Sub
```

- ⑤ワークシート画面に移る。
- ⑥[ALT]キー+[F8]を押す。
- ⑦次のように入力し、[OK]ボタンをクリックする。



- ⑧[×]ボタンをクリックし、閉じる。



- ⑨[CTRL]キー+[W]を押す。
 (変換されるので、次々と[CTRL]キー+[W]を押していく)

【解説】マクロの基本

```
1 Sub macro1()  
2 Dim str, s1, s2 As String  
3 str = ActiveCell.Value  
4 s1 = Left(str, 3)  
5 s2 = Right(str, 4)  
6 str = s1 & "-" & s2  
7 ActiveCell.Value = str  
8 ActiveCell.Offset(1, 0).Range("A1").Select  
9 End Sub
```

(行)

- 1, 9行 Sub マクロ名() ~ End Sub で全体を囲う。これは基本的な記述。
2行 Dim 変数名1, 変数名2, . . . 変数名n As データ型
※上記の例は、str、s1、s2という変数を文字列変数 (String) として宣言するという意味。

【ワンポイント!】データ型

データ型には整数型 (Integer)、倍精度浮動小数点型 (Double) 論理型 (Boolean)、文字列型 (String)、日付型 (Date)、などがある。

VBAではマクロ内で使う変数を、まず宣言する必要があるのだ。

- 3行 ActiveCell.Value . . . 現在選択されているセルの値が入っている。
つまり、3行目では、strという変数にアクティブセルの内容を代入している。
4行 str内の文字列を左から1~3番目の文字を、s1に代入している。
5行 str内の文字列を右から1~4番目の文字を、s2に代入している。
6行 strにs1とs2の間に- (ハイフン) を結合して、代入している。

【ワンポイント!】文字列の結合

& で文字列をつなげて表記すると結合できる。マクロ記述時には&の前後に半角スペースを入れるようにしよう。コンパイルエラーが減るはずだ (空白を入れないと&sなどといった文字と解釈されてしまうようだ)。

- 7行 アクティブセルにstrを代入している。
8行 アクティブセルを1つ下にずらしている。

【ワンポイント!】アクティブセルオブジェクト

VBAではよく命令を. (ピリオド) で区切る。これは「~で」「~の」と解釈するとわかりやすい。上記の例では. . .、

ActiveCell.Offset(1, 0).Range("A1").Select

アクティブセルより、下に1 右に0、範囲はA1(1×1)で選択 (Select) せよ、という意味になる。でつながった命令全体で処理と考える。

str = ActiveCell.Value

上記の例では「~の」と読み下す例だ。

アクティブセルの値 (Value) をstrに代入せよ、という意味になる。

【まとめ】VBAは楽しい!

VBAは記述ルールを理解すると、命令もある程度自動的に入力される (命令をうっているときに命令のリストが表示されたはずだ) ので、どんどんマクロを組んで楽しんでしよう!!